

令和7年度 すくわく活動報告

施設名 : 潮見保育園

年齢 : 2歳児・5歳児

実施期間 : 令和7年4月～12月

「色の世界を楽しもう」

ねらい

- ・自分の好きな色を見つけ表現することを楽しむ
- ・身近な色に親しみ、違いや変化に気づこうとする
- ・友だちや保育者と体験を共有し、探求する楽しさを味わう

2歳児『どんな色が好き?』

●活動

様々な色のクレヨンを用意し自由に描く活動を行った。紙に線が残ることや色が広がる様子を楽しみながら繰り返し描こうとする姿が見られた。



《子どもの姿》

- ・好きな色を選び描いていた。
 - ・「あお」「ぐるぐる」「ぴー」など、言葉やしぐさで伝えようとしていた。
- 《振り返りをふまえた気づき》
- ・何気なく手にしていたクレヨンも自分の意志で選んでいることに気づいた。好きな色が生まれ楽しさを全身で表現していた。



5歳児『ネバーランドってどんなところ？』

●活動

物語「ピーターパン」に親しみ、ネバーランドの世界を創造しながら話し合った。その後、絵の具の色を混ぜ合わせ夜空や海、島の様子を自分たちなりの色で表現する活動を行った。



キラキラしてると思う。夜だけど明るい感じ。



この色どうかな？ここは妖精が住んでいるところ

《子どもの姿》

- ・夜空を表現するために青や黒、紫を重ねて色を塗っていた。
- ・色選びや配置について話し合いながら、同じ世界を表現しようとしていた。
- ・物語の場面と自分の思いを重ねながら色を通じて会話を楽しんでいた

《振り返りをふまえた気づき》

- ・色は表現の道具であると同時に“思考のきっかけ”になる。
- ・正解を示さないことで想像の深まりが生まれる。

子どもたちは色を通して気持ちや場面を考えていた。また、友だちの表現に触れることで新たな発想が生まれ共感力や協同性に繋がり、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

令和7年度 すくわく活動報告 2

施設名：潮見保育園

年齢：3歳～5歳

実施期間：令和8年1月～3月

1

- タブレットとプロジェクターを活用した科学遊びの実践記録
- テーマ：「光と色のふしぎを見てみよう」

1. ねらい

本活動では、光や色の現象に触れながら、子どもたちの探究心を育てること、友達との関わりの中で考えを深めること、自分の気づきを言葉で表現することを目指しました。また、潮見保育園の保育方針である「大人が教え込まず、子どもと共に考え、主体性を尊重する保育」をふまえ、タブレットは“正解を示す道具”ではなく、“発見を共有するための道具”として活用することを大切にしました。

2

「見て見てあたしがいる」

プロジェクターって何だろうという問いから子どもたちの活動が始まりました。

プロジェクターからの光に手をかざしてみたり、自分自身に光を向けたりしていました。

その姿はまるで光と対話しているようでした。



3

「光がまざるよ」

4歳児では、セロハンをかざすと色が変わる現象そのものに驚き、「赤と黄色でオレンジだ！」などの発見を言葉にする姿が多かったです。タブレット撮影は保育士と一緒に構図を考えながら行いました。

5歳児では、「どうして紫になるんだろう」「太陽とライトで違う」といった比較や仮説が見られた。タブレットで撮影した写真を並べて見比べることで、自分の考えをより深めていく姿みられました。



4

「えいがみたいたよ」

光を当てたいろいろなものをタブレットで撮影しました。

懐中電灯を使ってスクリーンに光を当てたり、手をかざして影を映したりしました。光の向きによって影の形が変わることに、子どもたちはすぐに気づいたようです。ここでタブレットを使い、影の動画や写真を一緒に見ながら気づきを整理しました。「外でもやりたい」という興味の高まりを受け止め、保育者は答えを示さず「どう思う？」と問い返し、つぎの探究へつなげました。



5

まとめ

活動を通して、子どもたちは光や色の変化への興味を深め、予想を立てたり比較したりする姿が育っていった。タブレットは自分の発見を振り返るツールとして有効であり、友だちの気づきと比べることでさらに考えを深めることにつながったと思います。

4歳児は発見の共有を楽しむ姿が多く見られ、5歳児では探究的に考える姿が見られました。今後は、季節や天候に合わせて光の変化の活動を広げ、継続した探究へつなげていきたいと思います。

6